

第1回「調和と共生のまちづくり部会」会議録

日時：平成16年11月7日（日）

午前10時半～12時10分

場所：市役所8階802議室

出席委員13名

- 1号委員 大北国栄、宮本哲
2号委員（各種団体） 梶田忠博、河原純子、谷村勇、森尾陸子
2号委員（公募） 井上壽子、岡林扶美子、木下光、高橋功、水谷邦子
3号委員 前中久行（部会長）、農野寛治（副部会長）

欠席委員 なし

事務局

- 企画総務部 企画経営室企画グループ長：土井信雄
企画総務部 企画経営室企画グループ主査：小川祥

㈱日本総合研究所

研究員：高橋秀文

【土井企画グループ長】

それでは早速ですけれども議事に入らせていただきます。部会長につきましては規程によりまして部会委員の互選によるものとしていますが、どなたか自薦、他薦を問わず、いらっしゃいますでしょうか。

【梶田委員】

よろしいですか。どなたも立派な方ばかりでございますので。ただ、とりまとめというのは大変難しいものではないかなと。ということは、専門的な知識が必要ではないかと思うわけなんです。従いまして、学識経験者の経験の豊富な方に、先生にお願いしてはどうかなと思うのですが、どうぞよろしくお願い致します。

【土井企画グループ長】

今、ご発言をいただきまして、学識経験者の方でご年長で、経験豊富な方のご発言をいただきまして、となりますと前中委員の方になるかと思いののですが、皆さん、それではよろしゅうございますか。

(異議なしの声。拍手)

部会長は前中委員ということで決まりました。前中委員は部会長席にお移りいただくわけなんですけれども、そこで一言お願いしたいと思います。それから、引き続いて、部会長から副部会長を決めていただく、これは規程によりまして、部会長から指名するという事になっておりますので。その後の審議につきましては部会長にお願いしたいと思っております。どうもご協力ありがとうございました。よろしくお願い致します。

【前中部会長】

大変な大役ですけれども、河内長野のこれからの将来がかかっている大事な仕事ですので、一生懸命やらせていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。是非、いいものをつくるということで、力をあわせてやりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

それでは、部会長の最初の役目は、副部会長を指名するという事でございますが、農野委員にお願いしたいと思っております。農野委員は副部会長席にお動きいただきまして、一言ご挨拶をお願いしたいと思っております。

【農野副部会長】

おはようございます。ご指名を賜りました農野でございます。今年度から河内長野市さんの地域福祉計画の策定という点でも仰せつかっております。そんなことで、数名の方は顔を拝見したことがございまして、心強く感じております。まだまだ未熟者ではございますが、極力勉強しながら、皆さん方と一緒に、いいものをつくっていきたく思いますのでよろしくお願い致します。前中先生にも何卒よろしくご指導のほどお願い致します。どうぞよろしくお願い致します。

【前中部会長】

それでは本日の部会の議事を進めて参りたいという風に思います。河内長野市第4次総合計画基本構想についての具体的な議論ですが、第1回、第2回の審議会で事務局から資料をいただきました。進め方については、既に前回に説明されておりますが、今日も1枚のフローの、部会の進行についてのこのような資料がございますので配っております。本日は、第4次総合計画基本構想骨子(案)について、最初の部分、非常に基本的で重要な部分なんですけど、第1章「第4次総合計画策定の性格」という部分、それから、第2章「第4次総合計画策定の体系」、および、「本市の歩みと発展の可能性」に関して意見交換して参りたいという風に思っております。ここは部会の席でありますけれども、本日は部会の分野にこだわらず、全般的な視点からご意見をいただいて結構でございますので、よろしくお願い致します。

第1回の部会ということですので、最初に少し自己紹介を兼ねて、それぞれご意見を

いただきたいという風に思います。十分な議論、少人数で意見を交換するという風に思っておりますので、おおよそ3分ぐらいということで意見を述べていただいて、その後また、それをもとに、あるいは補足という形でお話をいただきたいという風に思います。

まず、自己紹介を兼ねてということでございますので、私自身から自己紹介ですけれども、私は、昭和52年に河内長野市の市民になりました。当時は、この河内長野は、自然環境に恵まれていて、なおかつ文化的な歴史もあるという、大阪府下ですずっと住むところを探した結果、河内長野が一番いいということで、河内長野の住民にさせていただいたんですけども。以後、仕事の関係もありまして、私自身はずっと市民ではなくて、単身赴任をして、あちらへこちらへ行ったり、また戻ってきたりということを何回か繰り返しておりますが、家族はずっと河内長野市民でございます。

専門は、大学で教えているのですが、緑地環境の保全というようなことをやっています。自然環境をどのように生活に活かしていくかというようなことをやっております。緑地環境をやっているということを説明すると、一般の方々はずぐ、生き物の保存とか、そういうことをやられているんですかという風に聞かれますけれども、もちろんそれもやっていますが、環境ですね、人間の立場から見てどのようにうまく利用していくか、資源を活かしながらどのようにうまく使っていくかというようなことを専門にやっております。もちろん、自然環境だけではなくて、人間生活と環境との関わりというようなことも研究していますので、場合によっては人間のために環境をどのように変えていくかというような議論をする必要があると思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、私の方から以後、お願ひしたいと思ひますが、ずっと左の方向へという風に思っておりますので、大北委員からよろしくお願ひします。

【大北委員】

大北でございます。市会議員代表という形で今回のメンバーにならせていただいております。私は、河内長野市に住民登録をしてから26年、もう27年になるわけですけども、私も、先ほど部会長がおっしゃっておられましたが、単身赴任を一時、やった時期もありまして、その後家族も来て、一緒に仕事をしていました、以前は会社勤めをしていまして、兵庫県の豊岡、今回の台風の影響でかなり水害を受けた地域で、1年半ほど、短い期間ではありましたが、その間、会社勤めしている間というものは、家から会社の往復で、朝早く出て夜遅く帰ってくるというような生活をしておりましたので、実のところ、河内長野市内全体の計画も含めて本当にわからない状態だったのですが、今、こういう市会議員というお仕事をさせていただいて、今まで知りえていないという、すべての面でよく勉強になって、そういうことを見据えた上で議会活動をやらせていただいているというような、今の現状でございます。

今回、審議会のメンバーとして参加させていただいた中で、どうしても市会議員という立場で質問なりいろいろさせていただく中で、現状からどうすべきかというそういう

視点で捉えてしまうような、我々の仕事の世界になってしまっていたのですが、今回、この審議会の中で、方向性なりを見出していこうというための審議会なので、切り替えもしながら臨んでいきななと思っています。どうかよろしく願いいたします。

【前中部会長】

どうもありがとうございました。続きまして、宮本委員。

【宮本委員】

おはようございます。宮本でございます。私も同じく市議員ということで、実は、河内長野市に来まして約 20 年位になります。それまで大阪市内の方でずっと勤めていたものですから、その時には尼崎の方に住んでいたものですから、たまに仕事の関係とか遊びの関係で、今から 30 年よりもっと前の話、40 年も 30 年も前の話ですけども、こちらの方に来た時は、「ああ、この辺から大阪市内に通われている方もいらっしゃるんだなあ」と、そういう感じを非常に受けたというように、その当時としては、大阪といえどもかなりまだ緑が沢山あって素晴らしいところがあるんだなあという印象を受けたのが、非常に記憶に深いんです。それが、いつの間にかここに住みまして、そこで市議会議員をするなどということは夢にも思っていなかったんですけども、でも、やはり、知ってみれば本当に素晴らしいところで、文化財なんかも非常に豊富だということがわかりまして、以外や以外、大阪府下の中で 2 番目、国、府、市指定の文化財が多いですよ。そういったことも本当に意外な発見でして、こういうことをもっともっと活かして、また、非常に広いまちですよ、面積的には。大阪府下の中でも 3 番目に広いというような。だから、そういった中で、こういう歴史豊かな文化財をもっと活かした特長のあるまちづくりが出来ないかなと常々思っております。今、この仕事の立場になりまして、是非そういったことをもっと強調していきたい、広めていきたい、そのような立場でいるんです。

今回、皆さんと一緒にこういった問題を考えていく審議委員の立場に選ばれたんですけども、どうしても僕らは具体的な実施計画みたいなものが先走ってしまって、目の前のことのあるやこれやを言うてしまうのですが、やっぱりここは、大きな 1 つの流れ、方針を決めるところですんで、その辺の修正もしていかなければいけないのですが、そういう大きな流れを皆さんとご一緒に考え、勉強させていただきたいという風に思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【前中部会長】

ありがとうございます。梶田委員。

【梶田委員】

梶田と申します。一般住民ということで、私の場合は団体、河内長野市老人クラブ連合会というのがございまして。92 クラブ、8,297 名の会長という関係から、ここに座らせていただいておりますのではないかなと思います。今、先生方がおっしゃいましたように、私も河内長野は地元ではございません。今、住んでちょうど 17 年です。前は大阪の方にいたわけですが、前職は、今、話題になっています郵政民営化がございまして、民営化には私は反対なんですね。ということは、特定郵便局長をしておったんです。だから、実際の苦労はああいう簡単なものではないというのは思っているわけございまして。平野に加美正覚寺という町があるんです。その町の特定郵便局の局長を、30 年 10 ヶ月させていただいたということでございまして。平成 2 年に定年になりまして、すると、今度はボランティアで何かやらせていただこうかなというようなことで、それで老人クラブのことだとか、自治会のことだとか、いろいろなことをさせていただいたと。そして、それが今まで続いているというのが現状なんです。

こちらに住んだということにつきましては、先生方と一緒に、やっぱり河内長野というところは緑が多いからいいねということ。それともう一つ、個人的なことですけども、近大出身なんです。近大病院がすぐそこにあると、これは一番安心やなということで、あかしあ台、本当に、狭山があって自由ヶ丘があってあかしあ台というような近い所に居を構えて今日に至っているということでございまして。

今回の審議会の仕事については全く分からないんですね。これは 1 年生で、講習をいただかなければいけないと思っております。ただ、老人クラブ連合会も全国的な組織ということで、友愛活動とか健康づくりとか、増進事業とか、あるいは社会奉仕とかやって、ボランティアの関係のいろいろなことをやっておりますので、そういう中から何かお役に立つことがあれば、発言を少しぐらいはさせていただいたり、教わる方が多いんですけども、どうぞひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

【前中部会長】

ありがとうございます。次、河原委員。

【河原委員】

河原でございます。よろしくお願ひいたします。私も昭和 47 年から河内長野に住ませていただいて、一度 49 年に京都の方に生まれて、10 年経って、子どもと主人を連れてまた河内長野の親元の方に帰ってきたんですけども、以前、京田辺の方に住んでおまして、そこも緑豊かな自然環境に恵まれた所だったんですけども、河内長野に帰ってきて、本当に自然に恵まれて、子どもたちものびのびと育てられたんじゃないかなと思っております。

はじめは、河内長野というところは、狭山遊園に少し住んでいたんですけども、その時に、活断層があってあそこには住みたくないねって言っていたのが、どういうわけか

こっちに帰って住むようになってしまったんですけども。こちらに住みだして子供たちとともに時間的な余裕が出来たりして、生協活動とかに参加して、石川がここから、河内長野から始まるということで、水環境の保護化も取り組ませていただいて、環境のお勉強もさせていただいたんですけども、今はちょっとそういったことから手を離れて、河内長野市の地域女性団体協議会というところの会長を務めております。河内長野市の生活も、いろいろとバブルの崩壊とかいろいろありまして、女性の方たちも生活だけじゃなくて、自分の余暇を利用して働きになっている方とかも多いので、なかなかこういうような団体に入ってこられる方というのも少ないんですね。ご理解をいただいて、少しの時間でも余裕を持って生活できるようなまちになってほしいなと思っております。よろしく申し上げます

【前中部会長】

ありがとうございます。谷村委員、お願いします。

【谷村委員】

私は三師会代表ということで、私は薬剤師なんですけども、たまたま輪番制で会長になって、ここに呼ばれたという状況でございます。私は、河内長野につきましては、河内長野生まれで、長野町生まれなんです。戦前のことですので、10人兄弟の7番目なんです。7年ほど東京で学生時代と会社勤めをしておりましたが、河内長野に約59年住んでいるということで、何もかもわかっているようでわかっていないのです、実は。長く住んでいるというだけで、ただ、河内長野って、東京にはちょっとおりましたけれども、やっぱりいいなと感じます。先般、また東京に行くんですけども、最近、ああいうまちを見ると非常に怖いというか、以前は、私らがいた頃は、学生はもう、「学生さん、学生さん」で、どこに行っても割引はあるしそういう状況でしたが、子どもが向こうに行くと言った時に、これは住ませてはならないと。もう、学生からどうして金をとろうかというようなまちに、特に渋谷だったんで、そういう風に思われます。

そういうことからして、私は兄弟が多かったから、この少子高齢化も非常に進行してきますけども、これもやっぱり避けて通れないなという感じもしますし、また、東京のど真中みたいなまちになってほしくない、キンキラキンよりも少し緑があって。

私はたまたま、河内長野の駅前に住んでおりますので、いわゆる市街地なんですけども、何か子どもさんの作文の中で「田舎かまちか」というのがあったんですけども、うーん、どっちやろうと。私は前々から田舎的な感覚でいましたし、市民の皆さんに愛される、一緒にやるということが持っていたもので。10人も兄弟がいるのに、7番目が親の跡の方へ帰ってきたという状況なんですけども、そんなことで私自身この計画につきまして、まさしく輪番制で当たったというわけですので、その点もよろしく願いしたいと思います。

【前中部会長】

ありがとうございます。それでは、森尾委員、お願いします。

【森尾委員】

私は夫の仕事の関係上、17回ばかり転勤いたしました。どういうわけか、夫が退職近くになって、大阪の方へ帰ってきました。もともと建ててあった河内長野市の家に入る羽目になったと言ったら変ですが、そこを退いていただいて入って、もうかれこれ17、18年になると思います。

行政と関わりができましたのは、はじめは自治会で女性団体の係というのをクジを引きまして、それで出入りするようになりまして。その自治会の役員は終わったんですけども、どうも暇そうなおばさんだということで、あちこちから声がかかりまして、ついに今の社会福祉協議会を背負う立場になってしまいました。

社会福祉協議会というのは、ヘルパー事業をはじめ、ボランティアの団体とか、先ほど申し上げました老人会や民生委員、児童委員など、いろんな団体の事務局をいたしております。そしてまた、老人福祉施設や赤峰の障害者センターの運営も任されております。言ってもいいかわかりませんが、年間6億円近くのお金が動いております。今やびっくり仰天するんですが、この細腕にその経営の手腕がかかっているわけですが、ちょうど割り当てていただきました今日の部会につきましては、私しっかりと勉強しなくてはいけないという覚悟でおりますのでどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

【前中部会長】

ありがとうございます。それでは、井上委員。

【井上委員】

一般公募の方から参加させていただいております井上壽子と申します。どうぞよろしくお願ひします。私も28年前に環境の素晴らしさに惹かれて、河内長野市民となりました。その時に、上の娘が4歳で、息子は1歳でした。それ以後、充分な素晴らしい環境の中で子育てが出来ました。おかげさまで感受性の高い、心優しい人間に育てることが出来ました。

私は25年間、中学校の教師を務めておりました。ですが、上の娘が知的障害を持っておりますので、その娘が社会参加をするための少しでも力になればということで、教職を辞めまして、その後、3年前に、平成14年から心身障害児者父母の会の代表として、障害を持つ子どもたちの親の皆さんと一緒に、親としてやるべきことに頑張っております。その中で、障害者のことを少しでも市民の皆さんにご理解いただくためには、やはりこういう場とかいろいろな場に積極的に出て行って、親でしか見れないというか、親

でしか言えない部分をどんどんとお話させていただく中で、少しでも皆様のご理解をいただけたらということで頑張っております。

昨年は、第4次総合計画に向けての市民会議が設定されましたが、その時も応募いたしまして、討議に参加させていただきました。その中で最終的には、高齢の方も若い子どもたちも障害を持つ人たちも、安心していきいきと暮らせる市にするためには、まず、自分の周り、地域のつながりを深めていくことが大切だというようなまとめになりました。いわゆる、隣近所の人たちがどういう人たちがいるのか、どういう手助けをするべきなのか、やれるのか、求めているのかというあたりを、しっかりとわかっていく中で、本当に安心して住める、みんながいきいきとして住めるまちになるのではないかなというような思いを強くいたしまして、今回も応募させていただきました。それを更に具体的に計画の中で組み入れていただけたらいいなということで。ただ、1回目から、少しついていくのがしんどいかなと思いをしていますので、しっかりと勉強をしなければいけないと思っておりますので、どうぞ皆さん、ご指導よろしくお願い致します。

【前中部会長】

ありがとうございます。岡林委員、お願いします。

【岡林委員】

私も一般公募として出させていただきました岡林と申します。私は30年ぐらい、こちらに引っ越ししてから経つんですけども、今まで、子育てとかいろいろでばたばたしておりましたから、こうやって市のことをゆっくりと見直すという機会もなく、きていたんですけども、とにかくいい環境のところでのびのびと育ってくれたと。そういう環境については、本当に申し分ないなと喜んでおります。

ただ、今、公募の話を聞きました時に、どうして出させていただくかなと思いましたがと申しますと、私の村ももれなくベッドタウンで、皆が一斉に集まって参りました。そして、その方たちが、ほとんど今は退職されて、何かまち自身があまり活気がないなあと、ふと気づいたらそういう風な状態なんです。どうしてかなと思うのですが、やはり、ウォーキングしたりいろいろなさって、人影も見るとはんですけど、前の、私達が引っ越してきて子どもたちはにぎやかにしている、そういう感じが全然見受けられない。お元気なんですけども、お家におられたりとかしている状態を見聞きしましたので。

だから、私としましては、この豊かな環境、歴史的にも文化的にもこんなに優れたところはないと思うんですね。そこに元気な方たち、高齢化になったお元気な方たち、今までにいろいろと、特技をお持ちの方も沢山おありかと思うんですね。その方たちが、どうにかして頑張って、また、頑張っていただけ場所、機会がないものかなと思いついて、公募させていただきました。

その時に、この「調和と共生のまちづくり部会」というのを選ばせていただきました

のは、この自然環境の中で、そういう方たちが、ご自分の持ってらっしゃる、この3番の「協働」というのと重なっているんですけども、そういうところで元気に活動・活躍して下さる場が何とかして、つくっていただけないものかなと思うのが、私の一番の願いなんですけども。

この会はこれで3度目なんですけども、出席させていただきまして、今更ながら、この市の状態とかいろいろ聞かせていただきまして、すごく難しい、私が思っていたことではなくて、とても難しいことだなということを再認識させていただきまして、これからまた、ちょっと自分の中でも改めて、本当に地に足が着いたと言いますか、本当に現状を踏まえながら、これから先、10ヵ年計画と聞かせていただきましたが、そういうのに考えさせていただかないといけないあと、本当に勉強不足なのですが、皆さんにいろいろ教えていただきながら、共に勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

【前中部会長】

ありがとうございます。

【井上委員】

すいません。勝手ながら11時に出させていただきますんですが。

【前中部会長】

そうですか、はい。では、木下委員、お願いします。

【木下(光)委員】

私も公募で参加させていただいている木下と申します。私は生まれた時から河内長野で、今、ちょうど21年目になりますが、今、ここから大学に通っています。

応募したきっかけというのが、大学で住民参加というのを習っていて、その中で、住民参加することがいかに大切かというのがわかって、それで軽い気持ちで住民参加をしないといけないなと感じまして、それで応募しました。それと、河内長野に住んでいても、興味がなかったというか、いいまちだからかなとも思うんですけども、河内長野のことをあまり知らなくて、でも、住民参加するには主体となる市民がどんどん参加していかないといけないなと感じました。それで、自分の住むまちの計画というのがどういう風に決まっていくのかなというのに興味があって参加させていただこうと思いました。

今、大学では、都市政策というのを学んでいます。ゼミの研究室というのが商店街の中にあるんですね。そこで、地域の人と交流しながら、どういう風にして商店街を活性化できるかとか、人をどうやって戻すことができるかということ、商店街の人と一緒に考えてイベントとか音楽会とかいろいろしながら考えています。そこでも、外から来

る学生が計画をしてしまって、それで商店街の人が参加してもらおうという形では、ずっと商店街の人も学生に頼ってしまって、自立出来ないというのを感じて、やはり、主体となる人がどんどん計画から参加していかないと、まちもよくなるなあと思いました。それで、参加させていただこうと思ったんですけど。

個人的にはドイツに興味があって、ドイツに行く機会があったんですけども、河内長野市とよく似ているなと感じた部分が多くあって、でもやっぱり、ちょっと違うところもあって、ドイツが好きなこともあるかもしれないんですけど、住みやすいなと感じました。私として出来ることを考えたら、ドイツに行った時の経験とか、ドイツのいい所で、河内長野市に応用できる場所があれば、どんどんそれを出せていければと思います。まだまだ勉強不足ですがよろしくお願いたします。

【前中部会長】

ありがとうございます。高橋委員、お願いします。

【高橋委員】

公募で委員にならせていただきました高橋でございます。よろしくお願いたします。16年前に河内長野に来ました。その前は泉大津に住んでいたんですけども、やはりここに引っ越す時に、皆さんおっしゃっておられるように、自然環境がすごくいいなあと思いました。空気と水がおいしいなあ。あとやはり、いろいろな文化財が、観心寺とかありまして、昨日も延命寺に行ってきたのですが、非常に文化財が豊かだという印象があります。

住んでちょっと経ったらバブルになりまして、どんどん山の方に家が建ち並んでくるんですね。これでいいのかと。いろいろゴルフ場の問題とか産廃の問題とか話題になってきましたが、そういうことが頭にありまして、私も60歳を過ぎまして、多分、この位置で余生を送ることになるかと思しますので、終の棲家になると思しますので、いいまちになってほしいと思しまして応募させていただきました。インターネットで見ましたので応募させていただきました。

特に地域活動というのにはしておりません。趣味でクラシックギターをやっておりまして、千代田公民館のギタークラブの代表をやっていまして、こういった分野では全くの素人ですので、皆さんのご指導をいただいて、ない知恵を絞って、何か意見を出していかなければと考えております。

昔なんですけれども、学生時代には財政学をやっておりまして、財政学と都市問題を専攻しておりました。会社時代には環境関係の部署に5~6年おりましたので。ということは、第2部会の「元気なまちづくり」の方がいいかなとも思ったのですが、やはり環境問題にちょっと、このまちに住んだきっかけもそういうことでしたので、第1部会を選ばせていただきました。

昔勉強したこと、20 数年前のことなのですが、きれいさっぱり忘れておりますけども、この機会にまた勉強させていただきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

(井上委員退席)

【前中部会長】

ありがとうございます。水谷委員。

【水谷委員】

私も公募で参りました水谷と申します。今回、この審議会に参加させていただこうと思いましたが、実は、市の方で男女共同参画市民実行委員会というのがございまして、そちらは発足しまして 2 年になります。ただ、それまでは市の方のいろいろな男女共同参画の事業の協力という形で参加していたんですけども、市民実行委員会という形になって、今年度の実行委員長を私がおおせつかりました。その活動の中でやはり、そういう視点が河内長野において、非常に物足りないなということを感じております。

その部分と、私自身は市に参りましてから 20 年を越しました。皆さんと本当によく似た感じでお話を伺っていたんですけども。ですから、2 人の子どもがおりますが、上の子は 1 歳の時、下の子はこの地で生まれました。ですから、この河内長野というのは、その子にとっては、生まれたふるさとになります。やはり、私自身もそうですが、自分の生まれた土地というのは、とても大切であると。それは皆さんにとっても同じだと思いますけども。やはり、そのまちが素晴らしい都市であり続けてほしいと願います。

子どもたちの関係でいろいろな地域活動もやって参りました。青少年問題であるとか、あるいは、ボランティアの関係では今、ボランティア連絡会というものがあるんですけども、そちらの方の世話人もやらせていただいています。私は手話の方をやっておりますので、聴覚障害者に関する問題からの関わりになっています。

そういった形で、いろいろな地域活動させていただく中で感じていることは、先ほど、今、退席された井上さんもおっしゃっていましたが、このまちが安心して暮らせるまちであってほしいと心から願っています。それは、先ほどおっしゃったような、健常者も障害者も、男性も女性も、それから、大人も子どもも大切にされるような、そういうまちであってほしいなと。そして、その大切な計画の審議会に参加させていただくことで、本当に少しでも私達市民の意見をお伝えすることが出来たらいいなということで、この審議会の方へ応募させていただきました。以上です。

【前中部会長】

はい、ありがとうございます。それでは農野先生、どうぞ。

【農野副部長】

大谷女子大の農野と申します。平素は学生さんと一緒に社会福祉の勉強をさせていただいております。この部会は調和と共生のまちづくりということで、共生というのは社会福祉の基本的な理念であるわけですが、おそらく様々な方がこの自然豊かな地域の中で生活されると、そういうことをイメージできると思うんですが、先日、地域福祉の方でお伺いしたんですが、アライグマが出るんですね。イノシシはもとより、アライグマがいると。「アライグマと共生してゆくまち」、そういうテーマが考えられそうなんですが。

今この時点で、様々な人と、そしてこの地域の中で豊かな自然と共生をしていく、そういう横の共生と、これから考えなければならないのは、過去、そして未来との共生、そういう縦の時間軸も非常に重要なことになるのではないかなと思っております。

先ほど来、文化財が多い、自然環境が豊かである、これをどのように過去の遺産、そして自然を将来につなげていって共生していくのか、そういうことを恐らくこの計画の中でも考えながら、将来この計画が実現した段階で、どのような横の共生の社会が出来上がっているのか、そのようなことになるのだと思うのですが。

先ほども少しお話があったんですが、一時期どっと、こちらの河内長野市さんの方に移ってこられて、その当時は一定のライフスタイルを求めてやって来られたかと思うんですが、例えば、高齢者の方にとっては坂道が多いとか、それぞれの今の段階、将来の段階でのライフスタイルというのも見直していく必要がある、そろそろ出てきてはいないかということですね。将来の高齢化、そして少子社会に向けて、どのようなライフスタイルが求められるか。そういうものが各部会でもあるかと思うんですが。同時に子どもを生み育てる方が夢を持てるようなまちづくりを考えたいと。さまざまなことが入ってくるかと思うんですが、今日、それぞれお話しいただきました、ご紹介いただきました方々、先生方、いろいろな分野でご活躍の方、あるいは非常に意識の高い市民委員さんの方々が来られていると、非常に心強く感じております。どうぞ、よろしくお願い致します。

【前中部会長】

ありがとうございます。私の方で最初に時間は3分と申し上げたと思うんですが、それに非常に気を使っていたら、多分、自己紹介だけしか出来なかったなという感じの皆さんもいらっしゃると思いますが、以後、具体的にいろんな問題について議論して参りたいという風に思います。

基本的にいろいろお伺いしたんですが、皆さん方は、優れた資源を河内長野は持っているという部分が共通認識ですが、少し時代の変化等々、将来についてさらに検討しなければならないのではないかと、そういう認識なのではないかと思っております。

市役所の方からの、今までの審議会で配られている案を見ますと、先は暗いような表

現になっておりますが、今皆さん方にお聞きしたところでは、客観的な状況としてはそのようなものがあるけれども、十分にこれから地域の特色等を活かしながら対応していけば素晴らしいまちになるのではないかなという、そういう感じでした。皆さん方はある意味で、地域の将来に明るい希望を持って、それをどういう風を実現するかという風なことで、非常に力強く思います。日常の生活を通じて、河内長野のことをよくご存知の方ばかりですので、そういう意味で地に足の着いた、その上で長い将来を見て総合計画を進めていけるものと思っております。

それでは、まだ時間は充分ございます。12時半には終わらなければ。

【谷村委員】

部会長、すいません。事務局には申し出たんですけど、11時30分ぐらいで

【前中部会長】

そうですね、はい。そういう方もいらっしゃると思いますが、一応、12時ぐらいまでまだ時間もございますので、特に今日は、第1章と第2章の部分について、広くご意見を賜りたいという風に思いますので、あとは順不同でそれぞれご発言をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。谷村委員どうでしょう、先に何か。

【谷村委員】

全般的にというか、ちょっと細かい話でもいいでしょうか？

【前中部会長】

どんなことでも結構ですので。

【谷村委員】

私はたまたま、先ほど申しましたように市街地に住んでいるんですけども、よく障害者の方などにいろいろ会ったりして、バリアフリーということによく関わるんですけども、河内長野の駅前を見ていただいたら、あの歩道で、バリアフリーというものの、車椅子の方は皆、車道を歩いているんです。歩道は歩けないんです。1.5メートルないですね。そういうハード面のこともありますけども、何かいつもそれが気になって、きっとどこかでいつかは事故が起こるだろうと。自分もそういう感じにいるんですけども、そういうことでお願いいたします。

【前中部会長】

いろいろ、バリアフリーに向けて、具体的な場所については気になるところがあるということですね。

多分、そういうことの中には、比較的、そういう視点で見直すことによって、割に簡単に修正が出来るような所もあるかと思えます。そういうことも含めて。

少し、基本構想の骨子というような資料を見直しながらかご意見をいただければと思えます。

【大北委員】

策定方針の中にもあるんですが、市役所の担当の方にもクレーム、といったらいかんですが、最近どこの市でもそうだろうと思うんですが、少子化の影響あるいは特に開発団地を抱えている市、あるいは町村ですね、それとこの地域、大阪府全体に言えることかなと思うんですが、高齢者が、いわゆる子どもさんですね、河内長野で例えて申し上げましたら、昭和48年に第1次オイルショックから始まり、第2次と、こういう形であったわけですが、その時にせつかく住宅誘致をするための造成もし、やっていて、ちょうど私、その前に勤めていた会社の仕事をしていた時に、河内長野市の方に延べ6ヶ月ほど出張していた時期があったんですが、ちょうどその時期に、秋に第1次オイルショックがあった折に、住宅誘致をして、新しい家でお正月を迎えようという、こういう計画で建てられていた家が、建築資材が入らないという状況になって、工事がストップしているという状況が軒並みありまして、その中で乗り越えて以後、住宅が建ち、今日のまち・景観になっているわけですけども、ところがその地域にお住まいの方というのは、現役で新しい持ち家を持たれてという傾向で建てられて、その後、何年か経ち、現在、その地域の方の大半が年金生活になっておられると、こういうことなんです。

そこで、後にお住まいになる方ですね、引き続き息子さんなり、そこにお住まいになる方が極めて少なくなっているという、こういう状況の中で、高齢化率もかなり引き上げているという実態にならざるを得ないというわけですけども。それもいろいろご事情があると思うんですね。通勤の関係でとか、勤務地が大阪以外の地域でだとか、こういう風な方がよくいらっしゃるという、こういう部分で、また、そういうこともある反面、若い人たちの定着率が非常に低くなっていると。毎年の出生数を見ている限りでは、大体1,000人前後位ですが、河内長野市内の出生数と、こういう形になるわけですけど、そういう中であって、単純計算ですと数字を入れていただいておりましたが、人口は増えていかないといけないという中で、ここ最近では減少傾向となっている中で、今回の4次総、これを進めてゆく中で、人口は11万ぐらいになりそうだという予測しているわけですけども、減る形でというよりも、増やすための方策ですね、非常に難しいことだと思うんですが、そういうこともこの場の中で議論、テーマは少し違いかもしれませんが他の全体のということでもありますので、考えていくのも1つの方向かなという感じがします。

また、このアンケート、昨年7月で、8月に回収、集計いただいたんですが、我々が今回進めて行く中で、非常に参考になる内容の結果が出ておりますので、自分自身もこれ

をよく吟味しながらやっていきたいなと、このように思っております。

【前中部会長】

人口、これをどういう風に考えるかは、いわば計画の基礎の部分になるので。

【大北委員】

そうですね、聞くところによりますと、担当部課の方では、じゃあどこへ引越ししてはるのかという話を確認してみましたら、お隣の和泉市の方に引越しされるケースが多いと。何でかなという、向こうは、住宅を新たに購入するにあたって安いという風な傾向になっているということです。土地の問題もあるんですけども。

【前中部会長】

将来計画として、ひとつの輝く姿を示して、よそから、たくさん、逆に周りからも来ていただくと。

【大北委員】

かつて、河内長野市が住宅誘致を進めていた時分がそうでしたけども、そこまではいかないにしても、増やしていくことも考えていかないといけないかなと感じています。

【前中部会長】

特に、河内長野は、ここでも少し分析をされていますが、交通の結節点であるということでございますので、将来計画を考える場合には大阪の他の都市と比べて、他府県に接しているところであって、他府県との交流ということも 1 つの将来の力として呼び込んでいって、将来計画をつくろうというのも非常に大事では。逆に河内長野の有利な点になるのだと。

【大北委員】

そういう意味で言いますと、アンケートの中で、河内長野が好きな理由というのが大きな 3 番目のところにあるわけですけども、一方では通学・通勤・買物に不便というのが約半分ぐらいあるわけですけども、全体で 85%の方が好きだという回答をしておられます。PR不足もあるかもわかりませんが。

【前中部会長】

いかがでしょうか、どんなことでも構いませんので、お話いただきたいと思います。はい。

【水谷委員】

お話を伺いまして、一つ、河内長野の人口の減少を止めるには教育の充実だと思っております。先ほどでも、皆さんのお話の中で、インターネットで検索してこの地を選んだという方がいらっしゃったかと思いますが、私も、知人の中でそういう人は何人もおります。やはり、教育環境が良ければ、人は、いくら少子化とはいえ、子ども達は今からも生まれてきますし、その人たちがこの河内長野を選びたいということは非常に大きなことではないかと思っております。生産年齢人口ということも期待できるのではないかなと思っております。

その教育の環境というのも、決して進学率が高いとかテストの成績が全国に比べてというのではなくて、子どもたちがこの地で安心して住めるということは、安全管理であるとか、また、人権意識であるとか、先ほど私が申し上げた、男女共同参画意識を持つような教育が実施されたり、あるいは学校教育だけでなく社会教育も充実しているという、そういったところで、そこが、私は河内長野が生き残るにはそこしかないのかなという風に感じます。大きな企業の誘致であるとか、あるいは今から団地の開発というのはもう難しいと思っておりますので、ですから、今、財政の方が逼迫しているというのは非常によくわかるのですが、是非、教育に関することに対しての予算を減らすとかではなく、むしろそこは守ってほしいと思っております。

私は大阪府の地域コーディネーターをやっておりまして、和泉市の方ともいろいろお話する機会があります。その中では、例えば、放課後の学校開放など、和泉市では非常に進んでいます。それも、市民レベルの地域の方々が、非常に活発に主になってそういう活動をされておられますし、また、安全管理につきましては、何か危機があった時には、一斉にそういう情報を発信するところを、行政と市民が協力しあって、今、そういうシステムが出来ているはずですが、ちょっと正式名称の方がわからないのですが、そういったところで、決して家の値段が安いだけではなくて、そういった環境というものは、とても大切な要素ではないかという風に感じております。以上です。

【前中部会長】

はい、ありがとうございます。

【梶田委員】

人口の変遷なんですけど、こちらの資料では、12年2月123,617人、これが最高ではないかと。13年になる時に919人減っているんです。と言うことは、13年12月に122,698人になります。その後が、122,129人で、15年の12月は121,923人と。121,923人から、私の方に関係のある65歳以上が21,031人です。加えて人口がどんどん減ってきていると。なぜかと。それが疑問なんですね。

大阪の方で、あるいは北野田ぐらいまでで、マンションがどんどん建っています。そうすると、通勤圏内が向こうの方へ全部行くと。土地によってマンションが安かった地域とかがあるのです。河内長野の方が今では土地が高いんですよね。だから、マンション的な住宅的なものが出来ていても、それが分譲が賃貸に変わらざるを得ないというような状況もあるらしいです。そういうような中で、河内長野の魅力、緑だとか文化資源とか、いろいろ我々もやります。やりますけども、なかなか乗ってくれないんですね。

それを何とかして乗ってもらえる魅力あるまち。一番、活性化であれば、例えば大学の誘致問題とか。ところが、土地が高いんですよ。大学といえば、先生方もご存知の通り、国の所有だったら安いから買えていけるんですけど、市やとか他のところが持っていたら、高くても出来ませんわね。そういうようなことも考えてみたり、あるいは、もっと、例えば、河内長野は地形がね、坂が多いでしょ。それから、南海さんの関係で発展したまちですから、どうしても南海バスが中心になってきて、縦はあっても横がないとか、このごろはモックルバスで大分補いはしてもらっています。そういうことから、お年寄りの方々は、自分で車を運転できない方は歩かないとしょうがないです。歩くとなったら、坂道を上がったたり降りたりするから、これは大変だと、これが声ですね。そういう風な意味合いから、住みよい中にも、そういうことを盛り込んでやっていたくという方法を、何かいい方法があったらどうかなと思うんですけど、お考えいただきたいと思います。

【前中部会長】

まさしくですね、そういうことを考えて、答えを出すのがこの部会の使命です。

【梶田委員】

バリアフリーの委員を1年半か2年位やらしていただいたんです。それは難しいんですよ。河内長野の駅も千代田駅の駅も拝見しながら、どういう計画があるんですかと。それから、模範のバリアフリー道路と言いますか、それが長野の駅から、ちょっと銀行のところを上がって、商店街の後ろの道を抜けて、それから本町の交差点が真っすぐはずっと抜けて行って公園の前を通過して、そしてラプリーの前まで行きますが、これが一番のバリアフリーの模範道路になっていたんです。

だけど、さっきもありましたように、もっと駅からの七ツ辻、川見の辻、それからラプリーと、その辺のところを何でもっと考えてくれないんですかと言ったら、残念ながら府の道路ですと。触れないんですよ。歩道は小さいし、かまぼこ歩道ですよ。自転車で行ったら、ガタンガタンとなるでしょ。そういう風なところももっと言及して、ならしてもらわなあかんのと違いますかと。市の所有道路と違いますから、どないもならない。そしたら府の方に掛け合わないといけないということになってくるんですね。ところが、あれを広くはできないんですね。買い取りしなくてはいけないと。そういうこ

ともいろいろと考えると、道路はやっぱり狭いんですね、そういう意味では。予算の厳しい折からですけれど、府の方とも協力してもらって、これからまた、審議の中で地方分権ということが出てくるでしょうけども、府と市とが協働してそれを改革していくという風になれば、何とかかっこつくんじゃないかなという気がします。ただ一つ、南海の駅にエレベーターがもうじき付きます、それだけは聞いております。

【前中部会長】

具体的な部分については、少し注意を払えば、先ほどのお話のように出来る部分もあるし、いろんな制度的にとりか社会的な意味でこれから切り開かなければならない部分もあるかと思いますが、そういうことも含めて、この計画というのは、これから平成18年度から10年間というの長い視点で見ると、逆に言うと、すぐに出来るようなことではなくても、27年まで一生懸命やっていって、なおかつその時点でまだ、10年前にすごい提案をしていたなというものが出来たら思うような感覚を持ちながら、議論をしてきたいという風に思いますが。はい、どうぞ。

【木下（光）委員】

先ほどの教育の話に戻るんですけども、お金をかけたり市がサポートしたりして、大きい教育の施策というのは目立つと思うんですけども、高齢化というのを活かしてお金をかけない教育というのも出来ると思うんですね。

例えばなんですけど、私のゼミのある三田市というところでは、商店街の方は、地域の子どもは親だけでなく、地域全体で育てていくのが当然だと考えてらっしゃって、そういう風に考えていらっしゃる高齢者の方もいると思うので、そういう方に時間を貸していただいて、河内長野市の良さとか伝統とかを子どもたちに伝えられたら、離れていく子どもたちも少なくなるかなとも思いますし、そういう目立たない、お金をかけない教育ももっとPRしていくべきだと思います。以上です。

【岡林委員】

今話を聞かせていただきまして、私も思っていたことなんですけども、今、人口が少なくなってくる。「やっぱり河内長野は魅力がある、いいな」というまちだったら、そうじゃないと思うんですね。そうしたら、どうしたらいいかと。先ほど、お年寄りの方のことを申してましたけども、今おっしゃられた若い方ですね、若い方に魅力あるまちというのが、まず大事だと思うんです、長い目で見た場合に。

今は個人的にもあまり見解が広くないので、それが正論かどうかというのは自信がないんですけども、私が見聞きしている中では、ラプリーホールなんかがありますよね。そこで、いろいろな催しがあったりします。それが、今おっしゃられた若い方、これから芽の出る、どうやって自分の持っているものを出そうかという方が沢山埋もれておら

れると思うんです。その方々が、お金もかけないで、楽に自分の才能を発揮できる場所という感じで、大いにあそこを活用していただけたら、そしたら地域の方々も、「どこそこの ちゃんが するんだな」という感じで、すごく地域で盛り上がっていくと思います。

というのも、私、少し前に文化連盟の方に参加させていただいていて、そこで 2 年、いろいろな会議でお話聞かせていただいていた中で、やはり何か興行するといったら、どこからかすごい有名な方をお呼びするということがあったんですね。すごい費用がかかるというも聞いていました。そういう風に、こんなに市が緊迫してきた状態だったら、まあ、それもいいんです、本物のいいものを皆さんにお伝えするというのは。またそれはいいと思うんですけど、毎年そういうことをやってらしたんですね。だから、その分を地域の若い人たちの伸びていく場所として使っていただけたらうれしいなと思っておりました。以上です。ちょっと「環境」からは外れるかもしれませんが。

【前中部会長】

幅広く議論して、それを元に次第にこの部会のところへということですので、今の段階では部会の枠にとらわれずにお話いただいてもよいかと。

【梶田委員】

今、木下さんがおっしゃった、子どもと年寄りの集いですね。それは今、地区福祉委員会というのが河内長野でも 10 数箇所あるんですね。これは校区福祉委員という名称になっています。そのうち、府とか国の関係で地域福祉に変わってきています。地域福祉に現在変わりつつあります。

その福祉委員会の面々で、それぞれ自治会と老人会とか、それから福祉委員会とで協働で相談して、校区の小学校がありますね、小学校の 1 年生に対してはどういうことをするかと。例えば、1 年生には、昔のものを与えるとか、昔の生活状況とか。それから、3 年生には、手作りでいろいろこういうものがあつたよとか、遊び道具はこうだったよという、高と小と幼とのつながりをしようということで計画して、大体年に 2 回ぐらいはやっていると思うんです、その委員会は。

ただそれを、今度は親御さんがもっと理解してもらったら、もっと膨らむんですね。それはまた、自治会の方でも、そういうことが、自治会ってなかなか動きにくいんですよ、子ども会だったらさっと集まりますよね。途中で集まれと言ったら、こっち側が集まっているけども、それを合流させようとする大変難しいんですね。だけど、それは本当は、今申し上げたように、小学校でそういうことをやってもらう、福祉委員会でそういうことをやってもらう、それをずっと広めていくことが、本当は高齢者と幼少の方とのつながり・ふれあいが深まっていくということになるんだろうなと理屈はわかっているんですよ。だけど実行が難しいんです。これも知恵を貸してほしいんですけど

ね。若いお母さん方がそれを認識して、「うちの子やから構わんといて、放っておいて」と言わないで、「どんどんうちの子を悪いことやったら怒ったってください」というような気になってくれば、ぴたっとくると思います。勝手でございますけどご協力ください。

【前中部会長】

ある程度長期の総合計画ですので、最初から実現性どうこうということを考えると今のようになりますので、難しくても将来の方向性を示すということで、それをさらに具体的にするのは基本計画であったりすると。あるいは、河内長野の優秀な職員さんが働いておられますので、その方たちに具体的にやっていただくということになります。市の皆さんの協力で進めて行くという、そういう仕組みのようなところも含めて方向性を示していくと。

もちろん具体的なことを踏まえてということもありますが、あまり最初の段階から具体的なことにこだわってしまいますとあれですので、夢のようなことで、なおかつそれを実現していけるという方向でご発言いただいたらと思いますけども。もちろん、本質的なことでも、それを元に話をしていけばいいので、決して本質的なことはいけませんよと言っているわけではございませんので、誤解のないようお願いしたいと思います。そういうことを踏まえて方向性をまず決めます。

【河原委員】

先ほどから話が出ているように環境的にはすごくいいところで、土地が高いとかそういうことで住みにくいというイメージがあるのかもわからないんですけども、大矢船の山の上のマンションがあるんですけども、そこが一応分譲をしたんですけども、半分ぐらい入れなかったんですよ。やはり、土地がちょっと高いところもあり、不便というのもあるんですけども。でも、それを今度は賃貸でお出しになったら、とたんに全部お住みになるようになったんです。だから、やはり、環境がいいから皆さんお入りになったのではないかなというのがありますし、子ども達の通学とかを考えたらちょっとしんどい面もあるんですけども、小学校はそんなにかからないんですけども、中学校になったら、山を越えて、次の山を越えて山に行くというような感じで、新興住宅地ですのでそういうような感じになっているんですけども、このごろ、私のところも新興住宅地で一つの山なんですけども、ご両親と同居で帰ってこられる方も結構いらっしゃるんですよ。以前は、会社に近い都心にいらしたと思うんですけども、やはり会社の関係でお給料カットとかそういういろいろな状況があって、親御さんと一緒に住んだ方が、その点、生活面が楽になるというような。でも、そっちに住んでいると通勤時間だとか、体に対しては楽なんですけども、やはり環境とか自分たちの生活のことを考えて、こちらに帰ってらっしゃる方も結構いらっしゃって、うちの地区では小さな子どもさんとも増えていらっしゃるんですけども。

その反面、親御さんの考え方なんでしょうね、「子ども会に入れたら役が回ってくるからイヤ」とか、昔からそういうのがあって、地域にあまり溶け込まれない若い方がいらっしゃるように思うんですけども、自分の考えだけで、子どもは子ども会に入りたいんだけど、親はそれをすると、自分に役が回ってきてしんどいかなというので遮断するとか、今、学校では、先生が子どもに体罰を与えたら、すぐに教育委員会に行くとか、そういう風な問題もいろいろあって、教育的にも今は教師の立場が低くなって親のそれが高くなって、段階的に学校に言っていかなければいけないことを、親はすぐに上の教育委員会に言う傾向があって、なんだかギクシャクしていて、地域に住んでいる方との交流というのがあまりないのが現実じゃないかなと思うんですけども。私たちが小さい頃には地域のおじちゃん、おばちゃんに育てられたというのがあるんですけど、今はそれが遠のきかけて、地域での福祉、お年よりの方が学校の子どもたちと交流する機会、この間も母が小学校の方へお邪魔して戦争体験の話をさせていただいたんですけども、そういう風にして地域が小さな輪を持ってしていって、だんだんそれが大きくなって広がっていくのではないかなと思います。

【農野副部長】

私は今、大阪市内の街の中に住んでいるんですけども、最近はやはりいろいろなマンションが市内に沢山建ってきています。私の給料でどういう所に入れるのかなとか、時々そういうのを見るのですが、最近豊中あたりでお伺いしたんですけども、様々な世代の方が一緒に入れるマンションをぼちぼち民間の方が建てておられるんですね。同じタイプの、ほぼ同じぐらいの年収を持った方で、同じ家族構成の形ばかりのこれまでのマンションを集めてしまうというのがありますね。自然とそういう形になってしまっていたのですが、ですから、どーんと地域にマンションが建つと5年、6年ぐらいの間に小学校の子どもがどっと増えて、「これは大変や、教室を広げないといけない」と。その結果、各地域によっては、小学校の生徒さんがものすごく増えている地域と、逆に減ってきている地域との差が見え始めているわけですね。まんべんなくいろいろな方に住んでいただくためには、そういう高齢者の方が入って、非常にバリアフリーがあって、利便性がある、そんな住空間というのは多分、子育てをしている方にも必要なんですね。ユニバーサルデザインで、しかもいろんな世代の方ががうまく入れるような仕組みのマンションというのが、これから必要なのではと思うんですね。そういうマンションを建てるのに誘導という形でメリットをつけるとかすると、世代間のバランスがとれるのではないかと、ちょっと今、お話を伺いまして、思っております。

【宮本委員】

いろいろお話を聞かせていただいて、本当に勉強になるんですけども、河内長野というのは山を削って住宅団地というのをつくってここまで大きくなってきたと。こればかり

りはどうしようもない事実でして、今更これを平らにすることはできない、どうしようもない。でも、今、先ほどから言われているように、今、高齢化になって、お勤めを終わって年金生活されている方が増えて行く中で、こういった人たちが本当に自由に外に出入りできるような環境づくりというのが欠かせないのかなという風に思うんです。

今まで、歩いていましてよく聞かされるのは、「よく買ったんだけど、ふと考えてみたら、車を運転できないようになったら、このまちはちょっとしんどいな」と言われているんですね。その人はやはり、もっと近くの港区のマンション、大阪市内の方に出て行こうとか、そういう風な話もよく聞くんです。そういう意味ではまだ、子どもと一緒に住まわっていて、子どもさんの運転で表に出られるような方はまだいいんですけども、そうでなくなった時に、1人で住まわれたときに、本当に家にいるしか仕方がないような環境というのがどうしても出来上がりつつあるというような。

これはやはり、今後、本当にもっと自由に、例えば、私は北青葉台ですけども、南花台に行こうと思ったら大変ですわ、年寄りが車を運転できなければ。そのことに今、ちょっとようやく気づき始めているというような状況になっていると思うんです。どうしたらそれを解決できるかというのはいろいろあるかと思うんですけども、そのことはやはり絶対に解決していかなければならない問題になるかと思います。それによって、先ほどから皆さんが言われているような、地域にあるいろいろ経験豊かな人が、子どもにも影響を与える人たちも含めて、活性化してくるといえるか、元気に外に出てもらわないことには、そういった人たちが外に出て、外でお金も置いておいてもらわないといけないうし、子どもたちともコミュニケーションを図ってもらわないといけないうし、やはりそういうことをしていけないといけないう感じがするんです。

先ほどからの話の中で、岡林さんが言われていた、特定のお金を出してイベントを呼んでくるというのではなしに、子どもたちにそういう発表する機会を与えればいいのではないのかなというのは、私もまったくだと思うんですけども、文化の日に河内長野で、いつもいろいろ呼んでくるんですけども、始めと終わりとして、河内長野の中学校の吹奏楽部や合唱部がいろいろなのでそういう発表をされたんですけども、いつもはあまりほめないんですけども、徐々に、河内長野市でいいことしたと思ったんですけども、やはり、ああいう機会というものをどんどん増やしていくということが非常に大切だなという風に思いました。あれは子どもだけでしたけども、子どもだけではなくて。今、いろんな方が、ギターをされているとか言われてましたけども、そういった方は沢山いらっしゃると思うんですね。そういった方たちが発表をする機会がなかなか、河内長野ではあまり多くないし、お金を出して発表されるような、僕はあまりしていませんのでよくわかりませんが、結構お金出さないとああいう発表する機会が作れないとか、そういったことがあるみたいなんですけども、そういう機会をもっともっと増やして、その辺の情報交換を自由に出来るようなシステムづくりというのが必要だし、そういうことをしていけばいいのかなという感じを、今お話も伺いながら感じました。

【大北委員】

今、宮本委員がおっしゃった部分と関連する部分があるんですけども、先ほど来、岡林さんもおっしゃっておられました、文化・芸術の関係ですが、河内長野市としても伝統文化もありますし、また、芸術に関することも、今までから過去に培った部分もありますし、若者たちもそういう活動の場、そういう風のを望んでいるところが結構あるんだと思います。だから、潜在意識がものすごくあるのだろうと思うんです。そういう意味から言いますと、市役所・行政側も、堅いことを言わずに、ある意味では、振興させるための使い易い施設にするとか、そういう規制緩和をこれからどんどん積極的に行っていかなければいけないと思いますし、そういう意味で行政もバックアップするという、共有体制づくりが絶対必要な部分ではないかと思います。

まちづくりの関係で、面白い話というか、ちょっと不景気な話になるんですが、同じ河内長野市内に住んでおられて、駅前あるいは、私は今、西之山町に住んでいるんですが、そういう地域から、やはり南花台とか北青葉台の新興住宅地、もう新興住宅地というのはちょっとおかしいかもしれませんが、20余年経っているのに、そういうところにあこがれて引っ越しされたんですね。ところが、先ほども話で出てましたように、非常にバスの便も少ない、昼間でしたら特に、とか、買物するについても、北青葉台、南青葉台で言いましたらスーパーやまもとさんですかね、コープさんがありますけども、でも距離がかなりあると。また、谷を2つ越えないといけないとか、そういう風な地域ですし、遠出というならば、自転車で行けば帰りは自殺行為ですよとかこんな冗談を言うようなこともあるわけですけども、非常に行きづらいという地域であって、またこちらに引っ越しされてきたという例があるんですね。だから、そういう意味で言いますと、やはり同じ河内長野市内で住んでいまして、それだけの地域格差があるという、こういう風な部分というのは、その地域の中で何とか解消できるような方法を考えていかなければならないのかなと。

そうしましたら、先ほどの若い世代の人たちの活動の場という風な部分、にぎわいのまちづくりという言い方も出来るかもしれませんが、若者の定着率を上げていくためには、そういうことも考えたり採り入れたりしていかなければいけないと、常日頃思っていて、なかなか難しい部分もあるんですけども。

【前中部会長】

長い将来に渡って皆が住み続けられるまち。なおかつ、新しい形で人を呼び込めるまちですね。

【大北委員】

河内長野市の特徴を出した形で進めていくというような。

【前中部会長】

その時に、この河内長野の地域の宝物、宝物というのは、いわゆる文化財や歴史だけではなくて、いろいろな人々が住んで、いろいろな活動をしていくというようなことも含めて、それを活用しながら、皆で自信を持ってまちづくりをしていくというような方向性が示されると。

【森尾委員】

皆さんのお話を聞いていて、大変勉強になったんですが、高齢者が今、平坦地を求めて、逆に平らなところに住みたいからということで、都会に行く人がいるんですね。友達などはそういう話をするようになってきましたので。これは大変だと思うんですが、将来的に考えると、人口が減少するということを抑えていくことと、それと、何よりも河内長野市は財源を確保するというのを今、一番考えなくてはいけないのではないかなと思うんです。

先ほどから、ラプリーホールの話も出てたんですが、私達ちょっと理事をさせていただいているんですが、ラプリーホールの運営というのは大変な金がかかっている割に、収入がなくて、いつもターゲットになるんですが。この間の文化の日の講演は確かに良かったと思います。ただし、あれは無料ですので、1円の稼ぎにもならないので、いつも、河原さんも一緒に役員をしているのですが、どうやったらラプリーホールを活用して少しは稼げるのかなということを、こちらが皆さんにお聞きしたいなという風に思うんです。

ラプリーホールとは全然違うんですが、例えば、市の施設、例えば錦溪苑のお風呂とかいろいろありますよね、コミュニティセンターのお風呂とか。ああいうのも、完全に何でも、市というのはどういわけか無料でなさっているんです。無料ですということとは、修理代とかみんなこちらから出しているということなんです、まずその無料というのを少しは有料にされたら、少しはましではないかななどということを考えてしまいます。

それから、河内長野市には、休日よく見てますと、他市からハイキング客とか観光客が沢山来るとは、見てると。皆さんおっしゃるのは、「宿泊施設がないから帰らなアカン」。そして、「目立って何がお土産かわからへん」ということをよく聞きます。だから、いつもどこの会議でも話題になるんですが、宿泊施設というのを、ポロ家でも何でもいいからちょっと作られないものかなと。それから、「河内長野のこれが名物です」という売るのがあれば、例えばラプリーホールのロビーに飾ってあったりしたら、皆さんに、「あちらに行くとお饅頭を売ってますよ」とか言って、少しは稼ぎになるんじゃないかと、私はそういう細かいことを考えて、財政を助けようと考えているんですが、いかがなものでしょうか。

【大北委員】

私も常日頃、ノバティの北館、南館が出来て、北館の方がいわゆる百貨店形式で、南館が専門店、それと4階以上が分譲マンションという形になっているんですが、降りて、確かに、金剛登山なんか、間の日もそうですけど、日曜日、土曜日などになりますと、ロープウェイ行きのバスに結構並んでおられるんですね。ところが、お金は向こうに落ちるといふ部分があって、お金を儲ける話も考えないといけないと思うんですね。駅前に着いたら、土産物的なものが、河内長野の地場のシイタケは石見川の方で作っているのがあるんですが、みかんにしてもそうですし、河内長野の特産というものの売り場がないんですね。駅の南海ビルの方には、地場産業の展示はしています。あれはあれで、僕はいいだろうと思いますし、ところが、お土産を買う所のコーナーがないというのは不思議で、ノバティをせっかく造ってるのに、何のためにやったのかなと、逆にこういう立場をさせていただく前から、先ほど言うておりました豊岡で点検して、帰ってきた時とかまだ工事やっていたんですけど、そういうコーナーがないのはやはり不思議だと。やはりそういうものも必要だと思いますね。

【梶田委員】

河内長野の活性化ということで、商工会の方が「河内長野にぎわい復活」という、商店街が今ほとんどシャッターを閉めていますね、だからそれを復活させようということ兼ねて、もっと長野を発展させようではないかということで、「河内長野にぎわい復活」をこの間、日曜日にやりまして、老人クラブも応援しに行きますということで、5、6人で応援に行ったんです。

とにかく、各商店、商店街の商店はほとんど閉まっているんです。だから、そこを開けてもらって、個人の持ち物らしいですね、ボランティアの人たち、千早赤阪の人とか、あちこちの人、それから、学校の関係のボランティアも来ていましたね、たしか参加してはったと思いますね。それで、天野酒、あそこで試飲をさせるということで、これを開けまして、それから恵比寿さんの公園で、お宮さん、あそこでフリーマーケット、200円の靴を売って、それは1つだけですけども。そういう風なことで、宣伝をされたんです。そしたら、1万2000人集まりました、お客さんが。そして、大分売上が上がってますよね。だから、それも何も高く売るといふのではなくて、普段と同じような、あるいはやや安く出来るところは手作りのものを安くしようかというようなことで200円の靴が出ているわけなんです。そういう風なことで、随分と人出もあつたし、それから、私も初めて天野酒の蔵へ入れてもらったんですけどね、自由に入れますから。そして試飲でちょっといただきましてね。

ああいう行事をいろいろやられたら、みんなが応援すればいいんです。例えば、地域女性団体が、年に1回何か大きな行事で講演会をやられえると、私のところの会員さん

も皆、聞きに行きます。そういう風にして、皆が合同でありながらやっていけばいいと思うんです。

先ほど、ラプリーの話が出ましたが、私達も一緒なんですね。もうひとつ値段を負けとけとか。あるいは、小ホールを借りますと、楽屋が1つなんです。そして、大ホールだったら、ズラズラと並んでいるんです。貸してくれないんですよ、大ホールが空いていても。料金を払うのだから貸してくださいよと言っても、「あきません。条例です」と、こう来たわけです。それを何とか変えてくれるように一生懸命頼んだんです、まあ、どうなるか知りませんけどね。

【農野副部長】

ちょっと話題が変わってしまうのかもしれませんが、森尾さんの方から、高齢者の方が他の市の方へ移っていかれるという話がありましたが、私もちらほらそういうお話をお伺いするんですけども、理由の1つとして、ちらっと聞いたんですけども、高齢になって体調を崩されて何らかの検査を受けられる時に、市内の病院に検診に行かれると。そういうお年寄りもおられるみたいですね。この部会の中で、健康づくりということも含まれているんですけども、高齢者の方だけではないとは思いますが、そういう医療体制ですね、そういうことを将来的に、広域の中で考えていかなければならないと。これから将来的に、どういう風にして人口を確保していくかということになったら、多分隣接する都市との競合にもなってくると思いますし、同時に隣接する都市が持っているそういう社会資源をどのように連携しながら活用していくか、そういう発想ももっと必要かなと思います。医療体制がそういう中で、実際に他の市域への病院に通っている方もおられるみたいですので、そういう連携というか、病院へのアクセスというか、いろいろなことを考えていく必要があるかなと思います。

芸術に関しては、以前、トロントに行きました時に、トロントの市がオーディションをやって、オーディションに受かった人は市の地下鉄で朝とか夕方にミニコンサートをやってかまわない等ということを導入されていて、それはとてもおもしろかったです。だから、音楽に限らず、そういう何か、市でコンペをされて、どこそこのまちでやってくださいとか、そのようなことをやればいろいろな取り組みになるのでは。従来はよくお花を駅にいけるボランティアがありましたよね。いろいろとそういうことをやれば盛り上がるのかなと思います。

【岡林委員】

活動の場っていうのが沢山あるといいなと思います。

【前中部会長】

住んでおられる方がいろいろな力を活かすといった時に、従来からの制度みたいなも

のが障壁になって、まあ、それは規制緩和の方向なんですけど、そういうようなものは、将来の方向としては、例えば「特区」というようなことで、他の地域と違うような形のことが、この部分は自由にやれますよとか、そういう部分も将来の構想に活かしていくとか、そういうことを自由に考えてみるということが必要になってくると思います。

皆さん方からいろいろいただきましたが、12時になりましたので。次回も引き続いて、ここで議論をいたしますので、どうでしょうか、今日特にこれは言っておきたいということが、もしもまだ何かありましたら、ご発言いただけますでしょうか。

【岡林委員】

森尾さんがおっしゃられました宿泊施設のことなんですけど、それも私、そういう希望をしておりました。ここは全然ありませんし、よそから、こんなに素晴らしい自然がいろいろあるんですけど、バスツアーで回るとしましても、食事するところもないんですね、何人か団体が食事をする場所もない。

ちょっと経験なんですけども、あちこち回ってきて、金剛寺さんから観心寺さん、延命寺さん、花の文化園もありますしね、こういういろいろ回るところがあるのに、食事をするところがないために、それを断念しないといけない。それで、おっしゃられた宿泊施設兼食事をするようなところがあれば、もっと外から、この素晴らしい河内長野に沢山の人が来られるんじゃないか。そこで、地場産業のいろいろな物、農作物とかいろいろな物を一緒に求めていただくという風にすると、もう少し、外から見た河内長野というのも魅力的な市になるのではないかなと思います。

【宮本委員】

今のお話もありましたように、河内長野というのはまだ、外にPRするのが下手なんですよね。もっといろいろな魅力をいろいろなものを持っているのだけれども、なかなかそれを具体的に、近隣都市も含めて、周りになかなかPRしきれていないと思いますね。だから、そのためにもまず、自分の地域を知ることが大切だと思いますので、こういう議論が当然必要なんですけども、やっぱりもっともっと具体的に外にアピールすると。その1つが宿泊施設とかそういう具体的な内容になってくるのではないかなと思うんですが。

もう一つ、さっき規制緩和というお話も出ていたんですけども、逆に、同時に、例えば今、商店街が大変な状況になっているので、例えば、うちの北青葉台では、今までは団地の中に商店がありましたよね。ただ、そこの中でもある程度のものが買えたみたいないところがあったんですけども、今はもう車で外に出ていかないと、外環まで出ていかないとモノが買えない。ある意味では非常に便利なんですけども、それによってまた、なかなか生活が出来ないという状況にもなってますよね。だから、そういった大きな大

店舗がバンバン出来てしまっている、そのことが逆にまた、商店街を潰している要因にもなっていますし、大店舗で儲かっている利益というのが、必ずしもこの河内長野市に落ちていないという問題もありますよね。こういったものの規制というのものも、逆に、そういうことも考えていかないと、守られない。そのバランスを考えてながら、考えていかなければいけないのかなと思います。

【梶田委員】

今、宿泊施設と食事場所が出ましたので、私も老人クラブの方で、メンバー92名と、そこへ役員さんが入るから、大体120名ばかりで、年に1回、総会と懇親会をやるんですよ。その場所がないんです。例えば、ラブリーの小ホールを借りるとします。机を用意したり片付けたり、こちらでしないといけない、料理の注文は決められているわけですからどうにもならない。今度、キックスも同じですわ、おおよそ。コミュニティセンターでお借りするんですよ、あやたホールをね。老人クラブは無料だからということで、無料で借りるんです。ところが、椅子を並べる、机を変える、これがものすごく大変なんです。

そこでじゃあ、市内でどうかというと、まずないんです、茶花の里はあったんですが、あそこで会議施設を作ってもらって、それでずっと4年ぐらい利用したんです。ところが残念ながらチャラになりましたんでね。そうすると、他にといったら、ノバティは120人の食事はちょっと無理なんです。これも具合が悪いと。どこかで何か作ってくださいよと。今まであった、天野山プラザとかこれもなくなってしまったし、茶花の里もないようになった。あと残っているところだとないんですよ。仕方がないからといって、去年は紀伊見荘まで行ったんです、送り迎えしてもらって。送り迎えがつかないと危ないんですよ、飲みますから、後でね。ということで、それに困るんです。

だから、今おっしゃった、大阪のようにホテルがあれば、会議施設と飲食の場所と別々で両方いけるんですね。そういう風なことで、やはりもう少し、外のお客さんに来てもらおうとすれば、そういう施設が必要ではないかなという気がします。だけど、これも交通事情ということになると、南海さんに怒られますけど、南海さんの地場ですから、大分皆さんよそは入りにくいのかなと。長野駅の構内に他のバスは入れないんですよ、南海に了解取れなかったらバスを入れてくれないんですよ。そういう風なこともあります。だから、ノバティの駐車場を有料で借りるんです、よそのバザーに行ったら、そこで皆で待ちあわして出発すると。そういういろんな苦勞をしておりますんで、どうぞよろしくお願いします。

【前中部会長】

ありがとうございます。今回は部会の1回目だったので、それぞれ日頃感じられていらっしゃるようなことを少し話をさせていただいて、それをもとに、以後、さらに議論を

進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それで、次回ですが、ここにフローがありますが、一応、第 2 回の部会ということで開催をすると。ここでは、全体の視点での審議ということになっておりますので、出来れば、配ってもらっている資料に基づいて、これの項目を少し具体的に、これでいいのかどうか、少し変更するべきものがあるのかとか、これは全く変えた方がいいとか、そういうことも含めて、議論をしたいという風に思いますので、そういう意味ではそれぞれご検討をお願いしておきたいという風に思います。それで、その後、必要があれば、臨時の部会を開催するということがあります、議論を尽くしたいと思いますので、進行具合によっては臨時部会を開催させていただきたいという風に思います。

< 日程調整のやりとり >

【前中部会長】

では、12月5日10時からということで、少しでもご参加いただければと思います。それから、他の部会は他の部会でやりますから、それぞれの部会もですね、そこでの議論を踏まえておくということが場合によっては必要かと思しますので、それはまた、各部会の日程が決まったら、事務局の方からご連絡いたしますから。

【土井企画グループ長】

今、空き状況を見ましたら、12月5日の日曜日の10時から、市役所の301号になります。また、ご連絡させていただきます。

【前中部会長】

どうもありがとうございました。いろいろご意見いただきましてありがとうございます。こういう和やかな雰囲気でも真剣に議論していきたいと思しますので、どうもありがとうございました。